

文化的景観だより

令和 5 年8月 15 日

発行 西予市教育委員会 まなび推進課



令和 5 年 7 月 30 日、第 2 回文化的景観ワークショップ「狩浜散策コースをつくろう！」を実施しました。この「文化的景観ワークショップ」

は、地区内の誘導サインや案内板の作成に向け、今年度全 4 回の開催を予定しているものです。第 2 回目となる今回は、地域内のどこに、どんな誘導サインが必要かを検討する準備として、来訪者がどこを歩くとよいのか、散策コースを考える回となりました。6 月に実施した第 1 回目の地域散策では、来訪者目線、地域目線からさまざまな発見がありましたので、前回の意見を振り返りながら話し合いが行われました。



話し合いの前に全員でイメージを共有するため、よその地区の散策コースはどんな感じなのか、全国の文化的景観選定地区から 4 例をピックアップしてご紹介しました。

どの地区も素敵な散策マップが作られています、事例から見えてきたのは、

各コース**共通の見どころ**と**特有の見どころ**をバランスよく辿れる構成になっていることでした。

じゃあ狩浜に置き換えるとどんな見どころが挙げられるでしょうか？例えば「各コース共通の見どころ」としては、**オリヤ養蚕**や**付属小屋**、**伝統的な主屋**、**舟板が使われ**

講師の
北山めぐみ先生



特別ゲスト
上杉和央先生



た建物、井戸などはある程度各地区に点在しているため、どのコースにも多少なりとも含めることができるかと思います。一方、「各コース特有の見どころ」というと、その場所にしかないスポット、例えば本浦なら**櫓倉**、**桑納屋**、**御旅所**、**今市水産**など、大狩浜だと**かりえ笑学校**、**原田さんのお店**、**春日神社**、**御旅所**など、門之脇だと**祇園丸**や**石積護岸**、**ベーカリーココ**、**よしのやさん**などなど…。これらを来訪者が迷わず、効率よく巡ることができ、なおかつ住民のみなさんの邪魔にならなそうなルートとは…？ということで、参加者のみなさんにたくさんのアイデアを出していただき、本浦、大狩浜、門之脇の3つのコース案ができました。それぞれのコースを紹介します。

本 浦

コース名：「**ヤエトコ通り**」

ヤー！エートコー！
※牛鬼の掛け声



【特徴】オリヤ養蚕や、狩浜で唯一の桑納屋・櫓倉を、そして昔ながらの川沿いの景観を楽しむことができるコース。

【順路】狩江地域づくり活動センターを出発し、重要な構成要素である主屋・養蚕小屋・オリヤ養蚕・蔵などを道沿いに眺め、途中の川沿いでは昔ながらの石の洗い場や石橋が現れ、終盤には地域に現存する唯一の桑納屋、櫓倉を見ることができ、最後に今市水産へと出られる環状線(徒歩約 60 分)が主線。拡張コースとして、①段畑コース(西の海のお墓がある廣福寺の裏を通る)、②狩浜倉庫街コース(10 月～4 月の選果期がオススメ)も考案(全部で約 90～120 分)。

【留意点など】駐車はセンター前広場、トイレはセンター内が利用可能。よっちゃんない屋とバス停近く

の自販機で飲み物が買える。曲がり角の案内、誘導が必要。第 1 回に意見があった**来訪者マーク(ワッペンなど)**があると地元住民が対応しやすいので、ぜひ導入を！

大狩浜

コース名：「春日さまコース」

やっぱり春日さまは
外せません…！！



【特徴】狩浜の聖地・春日神社と、昔ながらの建物、段畑や海の絶景が満喫できる！

【順路】かりえ笑学校を出発、川沿いを下って昔ながらの建物(舟板が使われた倉庫、主屋、養蚕小屋、家畜小屋、蔵、など)が並ぶエリアを通過して春日神社へお参り。集落内のナカ道(旧道)を通過して段畑へ上がると、大狩浜の綺麗な段々畑や法華津湾を見渡せる絶景ポイントへ到着。そのまま道を進んで岩雄さんの倉庫へ着くと、ジュースの購入やトイレ休憩が可能。最後にかりえ笑学校に戻る。約 60 分程度。

【留意点など】駐車は診療所前か、かりえ笑学校へ。トイレはかりえ笑学校内か、岩雄さんの倉庫のものが

利用可能。自動販売機が大狩浜集会所とかりえ笑学校にある。無茶々園の事務所がかりえ笑学校2階にあるため、お土産の購入もできるかも？

門之脇

コース名:「ぎゅっと濃縮! 海・里・山」

みかんジュース
っぽく!



【特徴】コンパクトに狩浜の海・里・山の特徴を味わうことができる!

【順路】診療所前を出発し、トイレなどはかりえ笑学校で。よしのや、ベーカリーココなど浜の道に沿って祇園丸のちりめん加工所へ向かい、途中から海岸沿いを歩き、牛鬼渡御到着地点で折り返す。国道沿いに集落へ戻り、長屋門、主屋・蔵、井戸、玄関前のおつつき石などを眺めつつ、丘の上のビューポイントへ上がり、記念撮影。丘から降りつつ、多品種栽培の農園や貯蔵庫を見てから集落へ入るとオリア養蚕があり、旧道(門之脇のメイン通り)へ右折。昔は産湯にも使われた井戸を眺めながら、出発地点へ戻る。約 60 分～90 分程度。

【留意点など】トイレはかりえ笑学校を利用。コース内でパンやアイスが買える。敷地内には勝手に入らないよう気を付けて!



第2回を終えてみて

さすがは参加者のほとんどが地元生まれ・育ちなだけあって、みなさん地域の穴場や見どころをよくご存じでした。選定前から調査に来ていただいている上杉先生や北山先生の客観的な視点も盛り込みながら、ネーミングセンスの光る素敵なコース案ができたように思います。これらはあくまでも現段階での「案」なので、今後は、このコース案が地元のみなさんの生活の妨げにならないかどうかの確認を進めていき、意見を頂きながらブラッシュアップしていきたいと思っています。

次回のお知らせ

第3回では、今回のコース案や、すでにある段々畑ガイドの会のコースなども踏まえて、どこに、どんな誘導サインが要るかを考えます。このワークショップで話し合った内容は、来年度の誘導サイン設置計画に繋がります。ぜひ、地元のみなさんには一人でも多くのご参加をいただき、一つでも多くの意見やアイデアをいただければと思います。次回は **9月2日(土)の13時スタート**です。これまで参加された方はもちろん、今回からの参加も大歓迎です！

狩江地域づくり活動センター2階ホールにて、みなさんのご参加をお待ちしています！

「誘導サイン」とは？

施設などの場所を示すため、屋外に設置する看板のことです。矢印で目的地の方向を示したり、「この先 100 メートル」のように距離を示すこともあります。右の写真は四万十市での例ですが、このように写真を挿入したり、見どころの解説板を兼ねたものもあったりと、場所によって様々な工夫が凝らされています。

設置の目的

狩浜ファンや、狩浜に関心を持って見に来られた来訪者が迷うことなく地域を見て回れるようにというのが大きな目的の一つですが、住民の皆さんの生活の場を守るためという意図もあります。以前、農道までバイクで上がってきた人がいたという話を地元の方から聞いたことがあるのですが、このように、来訪者に立ち入ってほしくないエリアへの侵入を防ぐことも、誘導サインや案内板を設置する一つの目的ととらえています。



【編集後記】

今回の事例紹介では、岩手県一関市、長野県千曲市、大阪府泉佐野市の職員さんにヒアリングのご協力をいただきました。どの地区も工夫が凝らされていて、来訪者の興味を引く素敵なマップでした。当日使用した資料も回覧するので、よろしければぜひご覧ください。（三瀬）